

五年に一度  
油日祭りの『奴振り』

油日神社では毎年5月1日に油日祭りが行われますが、5年に一度は「奴振り」が奉納されます。江戸時代までは上野氏、高野氏、相模氏、佐治氏、岩室氏の5氏が毎年輪番制で奉納してきました。明治頃から氏子関係の縮小により、上野頭殿株「瀬古、光前曾和の名字」が残ることになったため、現在は5年に1度の奉納となっています。

上野頭殿株委員長の瀬古さんは「今年は5年に1度の奉納する年でしたが、新型コロナで残念ながら中止を決定しました。奴振りには子どもから大人まで約120人の奉仕者で奉納しています。うち子役として10人が参加します。本来なら子役は頭殿株から選ぶのですが、前回の平成28年には、10人中8人は上野・油日地区から



▲平安時代から継承されている奴振り



▲上野頭殿株 委員長 瀬古 悟(せこ さとる)さん/油日神社で次回実施への思いを話す

も出てもらい何とか奉納できました。これまで継承されてきた奴振りを今後も絶やしてはいけないという思いのみで、今を生きる私たちが保存に向けて取り組んでいます。少子高齢化で次回の奉納は奉仕者の人数を縮小せざるを得ないと考えています。私自身も10歳の時に子役の一人として初めて参加し、以降は大人の役として毎回参加し、人生そのものが奴振りという感じでした。

山登りと同じ気持ち

「私にとって奴振りは「山登り」と同じですね。山に登り切るまでは苦しみも感じますが、頂上に到達すればすべてを忘れ、そこからの素晴らしい景色を望み、感無量になる、そんな気持ちにさせてくれる存在です。最後にはやって良かったとみんな涙することもありますよ。」と話されていました。



瀧樹神社の『ケンケト踊り』

毎年5月3日に瀧樹神社で奉納される「ケンケト踊り」。甲賀町の岩室地区、土山町の前野、徳原の両地区の3つの地域により継承されてきた室町時代から続く民俗芸能です。

特徴は小学生の子どもたちを中心とした踊り子たち。昔は地域に住む長男のみが生涯に一度だけ踊ることができた大変貴重な伝統行事であったようです。

踊りを支える小さな踊り子

3つの地域による持ち回りで行われますが、少子高齢化により、

▲頭のクジャクの羽でできた被りものが印象的



▲踊りを披露する時以外は、地面に足をつけてはいけないことになっている

踊り子や踊りを支える人員の確保が難しくなっています。そうした状況下で、現在は踊り子となる8人の小学生が集まらず、未就学児や2回目、また市外や県外在住であっても地元出身のご両親の子どもであれば踊り子として参加できるように変更されたそうです。保存会の中村会長は「私も50年前、小学6年生で初めて参加しました。」

時代にあつた変化とより多くの人の関わりを

「伝統を守ることはもちろん大切ですが、時代の変化とともに、その時にあつた考え方や方法へ変えていく必要もあると思います。」

水口囃子

若衆による保存への思い

辺りが暗くなった夜8時、地域の集会所に鉦や太鼓、笛の音が鳴り響きます。水口祭で曳山巡行にあわせて演奏される「水口囃子」。文化財であり、地域の誇りであるお囃子を守っていく強い気持ちの一方で、少子高齢化により、ヒト(人材)・モノ(囃子など)・カネ(資金)において非常に厳しい現実もあります。

昨年引き続き2年連続で水口祭が中止になったことで、囃子の練習も長期中止されていました。

そこで曳山を保有する町の若衆が中心となり結成されている「大水口宿禰ツト」がコロナ禍での囃子練習の在り方についてガイドラインを作り各町に配布。昨年11月から一部の曳山町では練習を再開。子どもたちが春休み期間中は、週2回の練習をされています。



▲新型コロナ対策をしつつ保存へ向けて練習する皆さん

多様性と寛容性を大切に宿禰ツトの西村さんは「これまでと同じやり方を続けることは難しくなってきたと思っています。その中で大事にしていきたいことが2つあります。1つは『多様性』、従来の男性中心ではなく、性別や地域を問わず多様な方々に関わってもらうこと。実際に新興住宅地からの参加もあります。」



▲大水口宿禰(おのみなくちすくね)ツト 西村 雅之(にしむらまさゆき)さん/演奏の指導役でもある

もう1つは『寛容性』、祭りや囃子は不要不急と判断されてもおかしくありません。またそれ自体が生計の維持や生活を保障してくれるわけでもありません。その中で多くの協力を求めるには義務感で縛るのではなく、地域に住むそれぞれの方が自分のタイミングに合わせて、できる範囲で協力し合う姿勢がこれからは大切なのかなと思います。先人たちが大事に育て継承されてきた『水口祭・水口囃子』だからこそ、「成り行き」に任せるのではなく、「能動的」に変えていくべく努力していきたいです。」と話されていました。

コロナに負けない甲賀のチカラ

昨年と同様に今年も新型コロナの影響で祭りが中止され踊りを披露することができず非常に寂しい気持ちです。地域で大切に継承されてきた踊りが2年間中止となったことで、次回の再開時に踊りに対する熱い気持ちを再び高められるか少し心配ではあります。衣装や着付けの準備、踊りに欠かせないお囃子の引継ぎなど、より多くの方々に関わってもらい、みんなの力で成功させることで地域が活性化すればと思います。

コロナの影響も前向きに

「2年間の充電期間ができたことで、踊り子やそれを支える人員の確保に時間ができたのではないかと前向きに考えています。」と話されていました。



▲瀧樹神社ケンケト踊り保存会 会長 中村 克也(なかむら かつや)さん/「初めて参加してから早いもので50年が経過しました。」と話す中村さん

甲賀市の豊かな自然とともに暮らしてきた私たちの中には、独自の文化や風俗に培われた意識が息づいています。コロナ禍の中、決して後ろ向きになるのではなく、この状況だからこそその新しい発想、新しい方法を探しながら、甲賀のチカラで甲賀のタカラを次の世代に引き継いでいきましょう。